

読売新聞 きょう（10月6日）のイチ押し

1面・3面・社会面 真鍋氏 ノーベル賞

今年のノーベル物理学賞に、地球の気候変動予測の道を開いた真鍋淑郎（しゅくろう）・米プリンストン大上席研究員（90）ら3人が選ばれました。気候学分野での物理学賞受賞は初めてです。日本人のノーベル賞受賞は2年ぶりで、28人目です。90歳での受賞は日本人最高齢となります。

- ★ 真鍋さんは発表の直後、自宅で本紙の取材に応じ、「宇宙や素粒子分野の受賞者は多いが、気候学者が選ばれるなど聞いたことがない。広い分野の研究者が対象になるのは素晴らしいことだ」と語りました。研究者仲間も「世界全体で問題となっている気候変動の基礎的な研究が報われたのは、大きな意味がある」と祝福しています。
- ★ 真鍋さんは愛媛県出身で、旧制三島中学（現・県立三島高校）を卒業し東京大に進学しました。小学校の時から優秀だったといい、小学校の同級生は「勉強はクラスでずっと1番。地元からこんなに立派な人が出て、誇らしい」と話していました。

1面・2面 岸田内閣支持56%

読売新聞社は4～5日、岸田内閣の発足を受けて緊急世論調査を行い、岸田内閣の支持率は56%となりました。菅内閣末期の前回（9月4～5日調査）の31%は大きく上回りましたが、菅内閣発足時の74%には及びませんでした。不支持率は27%でした。

岸田首相は内閣や自民党役員人事で、ベテラン、中堅、若手の「老壮青」のバランスを重視していますが、これを「評価する」と回答したのは64%に上りました。「評価しない」は24%でした。

一方で、党幹事長に甘利明氏が起用されたことについては「評価する」が30%にとどまり、「評価しない」は48%でした。

他紙と比べて

性の問題をテーマに、くらし家庭面で6回掲載した連載「性の風景2021」への読者の声を「反響」編として掲載しています。子どもも読む新聞で、性を正面から取り上げることに批判もありましたが、同じような悩みを抱える読者からの共感が大半で、難しいテーマをタブー視せず、あえて切り込んだ意図はおおむね理解されたようです。